

十勝清水町から

清水町担い手支援アドバイザー

上谷明美

こんにちは。朝晩の空気が日に日に冷たくなりましたね。

七月から八月の猛暑が遠い昔の事のように感じられます。今年の夏はついに私も熱中症を体験しました。畑での作業中ではなくて夜の室内です。テレビなどで室内での熱中症について知識はあったもの、まさかの涼しい北海道、そして自分と驚きました。それからというものの電気屋さんのチラシに載っているエアコンばかり気になりましたが「喉もとすぎれば…」で暑かったときの事をすっかり忘れて、布団をかぶりぐっすりやすやすや眠る毎日です。

◆「秋の十勝」

今の十勝は、まさに「つるへ落とし」のような夕日と競争しながら豆の収穫、秋時き小麦の播種作業などに追われています。

春から夏にかけての大干ばつで今年の作はどのようになるか…と心配しましたが秋時

き小麦は大豊作、豆類も豊作、葉が枯れかけたビートもなんとか勢いを取り戻して白い体が丸々と肥えてきているのを見るとほっと一安心しております。

今号も書き留めておいたエッセーを紹介します。

◆「金魚すくい」

七月から九月にかけて、あちこちでお祭りがあり家族で楽しんだ。子供達も小遣いを握りしめ夜店廻りをしていた。青や赤に緑色のカラフルなかき氷、たれの焼ける香ばしい匂いの焼き鳥、わたあめ、チョコバナナ。赤い電球に照らされた子供達の目は本当にキラキラしていた。

沢山ある夜店のなかでも、わが家の子供達のお目当ては金魚すくい。沢山くえるようにと現代っ子らしくインターネットで金魚すくいの「コツ」を学び、お風呂場で練習までする気合の入れよつた。

「ホイ」と呼ばれる金魚すくいの網は和紙が張ってある表と裏に注意すること、

上 谷 明 美 (かみや あけみ) さん



農業（十勝清水町）

昭和43年生まれ 福島県出身

14年前、憧れの北海道に嫁ぐべく婚活。

見事に射止めた(?) 夫と夫の両親と子供3人の7人家族で小麦、ビート、小豆、金時豆、かぼちゃ、にんにく、スイートコーンなど36haを耕作しています。

趣味：刈払い機での草刈り…ホームセンターに行くと刈り払い機が気になって仕方ありません。



手首まで水に沈めて静かにポイを動かす事などいくつかのコツが紹介されていた。いざ本番！地域の秋祭りで腕試し。毎年、役場の課長さん達が出店してくれるので一回一〇〇円と良心的な金額だ。ベンチに座り待つ私の元に、金魚の入った袋を提げて息子が戻ってきた。小

さな赤い和金が一匹泳いでいる。「全然すくえなくておまけしてもらったの」と息子。「あら、そうだったの。ちゃんと手首まで水の中に入れたのかい？」と私。息子「入れたけどダメだった、もう一回行ってくる」と元気に走り去る。

その後もぶら下げてくる袋には金魚が多くても三匹くらい。帰りの車の中で子供達が「水の中でモナカが溶けてつまくすくえなかったよね〜」。

モナカだど！そりゃうまくすくえるはずもない…。

◆「キンモクセイ」

北海道に嫁いで十数年。この季節になるとどうしても恋しくなるのが（キンモクセイ）の香りだ。十勝には庭木として少ないのが、農家という土地柄で住宅街を歩く事がないからなのか、まだ一度もお目にかかって、いやお鼻にかかっていない。

こちらの暮らしにもすっかり慣れて不

満などない楽しい毎日のだが、キンモクセイの香りを嗅ぎながら昔住んでいた東北の街を歩いてみたくなる。

澄んだ冷たい空気の中、すっかり暗くなつた通りでどこからか（ふわり）と匂ってくる甘い香り。秋の訪れを感じてなのだろう、無性に寂しくなるのだがわずか数日はかりの香りと感じを樂しむつとその時期はゆっ／＼／＼ゆっ／＼／＼と通りを歩いたものである。

どつ／＼しても恋しくて、ドラッグストアの芳香剤売り場で（〇〇デー キンモクセイの香り）をクワンクワンするのだがやはり何か違う。あの（キユン）とする感覚は鼻先がツンと冷たくなる空気と薄暗さが合わりさり完成される匂いだと気づく。

北海道でも（春の桜）（夏の暑さ）（冬の雪景色）と季節は廻ってくるのだけれど私にとっての秋の訪れの（キンモクセイの香り）だけ足りない。

どなたかキンモクセイのありかを知り

ませんか？

それよりも今年こそは苗木を買ってわが家の庭に植えてみようか。いつの日か可憐な黄色い花と甘い匂いで私に秋の訪れを教えてくれるのを期待して。



◆「草刈り」

数年前から刈り払い機で草刈りをしている。これがなかなか楽しい。

機械を左右に振ると（ハッサハッサ）

と草が倒れ、振り返るとスッキリとした青い道が出来上がる。

おまけに刈り立ての草の香りは天然のアロマテラピー。露にヨモギにカミミール、進むたびに香りが変わる贅沢な瞬間だ。

自然観察も楽しい。大きな株のイヌビエを根元から刈ると蟻が卵をかかえて右に左に大慌て。ネズミヤカエルも丸い刃の先を危機一髪で逃げていく。へビの抜け殻も発見。仕事が遅れるのでいちいち足を止めていられないのが残念だ。

背丈よりも大きくなったイタドリ、木のように枝が太くなったヨモギ、おばけ傘のような露。刈り払い機を（ぐんぐん）と持ち上げて力をこめて「エイヤッ」と居合い斬りのように振り回すと（スパッ）と気持ちよく切れていく。草も負けてなるものかと言わんばかりに次の朝にはもう新しい茎を伸ばしている。

秋も深まり畑仕事も一段落してくると



あぜ道の草たちも妙に弱々しく見えてくる。イタドリは霜にあたって黒くしおれ、露の葉も丸まり、ヨキギの葉も枯れて茶色の枝になっている。夏にはべんべんと

伸びて憎らしかったはずなのに今は少し優しい気持ちで「おつかれさん」とその命の終わりに眺め入ってしまった。銀色に光るすごい刃物を持たない私は草達にも優しく見えているのかな。春ま

でお互いにゆっくり休みましょつね。

◆「方言」

北海道の方言には「なるほど」「と感心するものが多い。「つつへ」「つつるかす」などはびったりすぎて標準語が思い出せない。北海道に嫁いできて驚いたのは意外にも訛りが少ないと云う事だった。東北よりも北に行けば行くほど訛りが強いと思っていたのがっかりするほど標準語に近かった。

東日本大震災後、私の故郷の福島訛りをテレビで耳にすることが多くなった。こんなきっかけなのが切ないのだが独特のイントネー

ションは懐かしく心にやさしく響く。福島弁には「大丈夫」を「わげね」や「かわいそう」を「もごい」など短く言い換えるものが多い。震災の時もやっとつながった実家への電話で母の短い「わげね」の声にほっとした。

私には懐かしい訛りも主人にとっては超がつくほどの難関らしく一緒に帰省した時は聞き取れない言葉も多くて「外国にきたようだ」とよく笑つ。さすがなのは子供達、難解な方言もしいちゃん、ばあちゃんの仕草や表情からうまく読み取り、難なくヒアリングできている。夫だけはなかなか聞き取れず、ひたすら笑顔で誤魔化し、時にトンチンカンな返事をしたりする。そんな時は私が（バイリンガル）気取りで通訳したりする。長く染み付いた訛りはいくつになっても忘れないものだ。